

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 19 日現在

機関番号：31307

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20686041

研究課題名（和文）精神病院における認知症高齢者の治療・療養環境のあり方に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Environment for Elderly with Dementia of Mental Hospital

研究代表者

嚴 爽 (YAN SHUANG)

宮城学院女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：60382678

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：建築計画、精神科病院、空間構成、治療・療養環境、在院期間

## 1. 研究計画の概要

本研究は研究期間内において、以下の3つの課題を明らかにしていくことを目的とした。

- 1) わが国における精神科病院の認知症病棟の入院患者の属性及び生活実態を把握。
- 2) 認知症病棟の平面構成の類型化と患者の治療プロセス及び生活実態を踏まえた空間的あり方の提言。
- 3) 海外の先進的取り組み事例の検証と、それに基づく認知症高齢者のための医療とケアとの連携モデルの提示。具体的に、下記の流れで研究を進めていく計画であった。
  - ① 病棟種別に見た患者の基本属性及び病棟の空間構成との関わりの考察
  - ② 空間利用を中心とした生活実態の把握
  - ③ 治療プロセスを通して見た空間・環境の働きかけの検証・考察
  - ④ 「社会復帰」を最終目的とした、精神科病院における認知症専門病棟の空間的計画知見の提案

## 2. 研究の進捗状況

当初の計画上では、今年度（2011年度）はこれまでの研究を補足する調査を行い、研究成果のまとめ、学術誌への発表を行うことで成果を社会に還元する年である。現時点において、上述した3つの目的、①～④の研究ステップ全てが、以下の通り過年度において実行済みである。

**目的1）（ステップ①）**に関する研究は、2008年度にアンケート調査と宮城県にある精神科病院での行動観察調査を行い、精神科病院における認知症高齢者が置かれる状況の把握ができた。研究結果は学会にて発表した。

**目的2）（ステップ②～③）**に関する研究は、2009-2010年度に実施した。2009年度は平

面分析によって、認知症病棟の平面構成を類型化した。2010年度は、調査対象病院の各病棟において、認知症病棟も含めて、疾患種別の患者への行動観察調査及び追跡調査を行った。行動観察調査では疾患種別の空間利用特性を捉え、時系列的追跡調査では治療プロセスと空間・環境の働きかけを明らかにすることが出来た。以上の調査結果を踏まえた精神科病院における空間・環境のあり方への提言に至った。

**目的3）（ステップ④）**のうち、海外の先進事例での調査は2009年度、2010年度に継続的に実行し、2011年度も引き続き事例収集を行う予定である。また、**ステップ④**の一環として、2010年度に「社会復帰」プログラムを積極的に進めている精神科病院を対象とした調査を行い、社会復帰に繋がる精神科病院の病棟環境のあり方および退院後に必要不可欠なサポート要素を整理した。

## 3. 現在までの達成度

計画の9割程度は達成出来ていると言える。そのなかでも、計画通り順調に進んでいない点及び計画以上に進展している点を以下に挙げる。

1) 計画通り順調に進んでいない点と理由  
全国の精神科病院を対象としたアンケート調査を2008年度実施したが、送付・回収のタイミングが病院の繁忙期に重なり、回収できた有効回答が少なかった。今年度（2011年度）再度実施する予定。

2) 計画以上に進展している点と理由  
当初の計画では認知症高齢者及び精神科病院の認知症病棟のみを対象としていたが、調査を進めていく中で、患者像の多様化によって、精神科病院環境に対するニーズも多様に

なっていることが明らかになり、2010年度の調査では調査対象を統合失調症病棟、ストレスケア病棟などへと広げ、認知症病棟を含めた疾患種別における環境要素の相違に関する比較調査を行った。

#### 4. 今後の研究の推進方策

1) 予想通りの成果が得られなかったアンケート調査を再度実施する。有効回答率を高めるため、日本精神科病院協会の協力を頂き、認知症病棟を持つ精神科病院のみに郵送する形をとる予定である。また、質問項目においても、これまでの研究結果を踏まえて再度設計する。

2) これまでの3年間は国内、海外の調査それぞれ独立した調査軸で行ってきた。今年度は国内・外の比較を行い、海外の先進的知見を参考しつつ、わが国独自の精神科病院における空間環境のあり方を探る。

3) 研究のまとめに当たっては、早期退院につながる病棟環境のあり方及び「社会復帰」を実現させるための地域ネットワークづくりを含めた在宅サポート要素の整理及び提案を行う。「社会的入院」を減らすための院内・院外環境に対して、認知症高齢者を含めた精神疾患患者に対して建築計画・地域計画といった縦断的視点におけるサポートシステムの構築を最終目的とする。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 巖、米内千織、平面分析による空間構成に関する考察-全国調査を通してみた認知症高齢者グループホームの現状に関する基礎的研究-、日本建築学会計画系論文集、NO. 624、pp271-278、2008年、査読有り
- ② 西野達也、平岡友紀、巖、グループホーム入居者の地域生活環境の継続に関する事例考察、日本建築学会計画系論文集計画系論文集、NO. 624、pp279-286、2008年、査読有り
- ③ 巖、認知症高齢者の在宅生活を支えるネットワークケアの構築に関する事例考察、日本建築学会計画系論文集計画系論文集、NO. 642、pp1717-1724、2009年、査読有り

[学会発表] (計4件)

- ① 巖、鞆の浦におけるネットワークケアの実態に関する考察-認知症高齢者を支える地域社会の構築に関する研究その1-、日本建築学会大会梗概集、2008年、E-1分冊

- ② 巖、認知症高齢者グループホームにおける「居場所」選択に関する事例考察、日本建築学会大会梗概集、2009年、E-1分冊
- ③ 児玉千枝、巖、精神科病院の長期入院病棟における患者の生活行動に関する研究その1、日本建築学会大会梗概集、2009年、E-1分冊
- ④ 巖、経時的な視点から見た病棟構成及び平面プランの変化-精神科病院の治療・療養環境に関する研究その1-、日本建築学会大会梗概集、2010年、E-1分冊

[図書] (計3件)

- ① 超高齢社会の福祉居住環境-暮らしを支える住宅-、共著 (巖:12章)、中央法規、2008年
- ② 建築大百科事典、共著 (巖:pp562-563)、朝倉書店、2008年
- ③ 認知症ケア環境辞典-症状・行動への環境対応Q&A-、共著 (巖:第3章3-1、3-6)、ワールドプランニング、2009年